

| NO | 科目名・科目コード                               | 講師名    | 方法・場所・定員                            | 実施日                              | コマ/単位数  | 概要   | 備考       |
|----|---|--------|-------------------------------------|----------------------------------|---|--|----------|
| 1  | 実務講座カリキュラムガイダンス<br>100-01 (01-02)       | 川波 祥子  | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/ 1 (月)<br>1/ 5 (火)             | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分                                   | 実務講座のカリキュラムおよび実務研修センターでの研修についてのオリエンテーションを行う。センタースタッフ紹介、センターでの組織、研修における単位認定、注意事項、日本医師会認定産業医の更新について説明を行う。  | 学内者のみ受講可 |
| 2  | 入門シリーズ (総括管理概論)<br>100-02 (01-02)       | 大神 明   | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/ 4 (木)<br>1/ 5 (火)             | コマ数<br><br>0<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 | 労働衛生における総括管理とは、労働衛生の三管理の基盤を構成する事業場の労働衛生管理体制づくり、労働衛生教育および三管理を包括する活動・リスクアセスメントを含めた労働衛生管理のことを指す。本講義では、それに関連する現行の制度や方法論について概説するとともに、産業医に期待されている事項について検討する。併せて、特定の業種における統括管理の考え方にも言及する。 |          |
| 3  | 入門シリーズ (労働衛生のしおり通読)<br>100-03 (01-04)   | センター教員 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/ 1 (月)<br>1/ 5 (火)<br>1/ 6 (水) | コマ数<br><br>0<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>更新 1.5 | 労働衛生の法的枠組みや課題等を整理するため、「労働衛生のしおり」を通読する。   |          |
| 4  | 入門シリーズ (嘱託産業医のためのQ&A)<br>100-04 (01-04) | センター教員 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/ 2 (火)<br>1/ 6 (水)             | コマ数<br><br>0<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 | 産業医には臨床医学的知識のみならず、労働衛生関係法規、作業環境管理、作業管理、健康管理及び労働衛生教育など、広範囲にわたる産業医学と産業保健に関する専門的な知識が必要とされる。教本「嘱託産業医のためのQ&A」を用いて、産業医の職務について整理し、実践に役立つ知識の習得を目指す。  |          |

| NO | 科目名・科目コード                            | 講師名     | 方法・場所・定員                            | 実施日                              | コマ/単位数          | 概要  | 備考 |
|----|--------------------------------------|---------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------|---|----|
| 5  | 入門シリーズ（職場巡視のポイント）<br>100-05 (01-04)  | センター教員  | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/ 4 (木)<br>6/ 5 (金)<br>1/ 7 (木) | コマ数             | 産業医活動は、産業医が職場を理解し、職場が産業医を認知し、産業医と職場が一緒に考え、ともに行動できるようになって、はじめて意義深いものとなる。このステップにおいて職場巡視は極めて重要な活動であり、「産業医活動は、職場巡視にはじまり、職場巡視に終わる」とも言われている。本講義では、職場巡視における基本的な目的や意義を理解し、認識を深める。また、職場巡視の実施方法・着眼点さらには注意事項について学習する。  |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 0               |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第2クール<br>専門 1.5 |   |    |
| 6  | 企業における健康危機管理<br>100-06 (01-02)       | 中 谷 敦   | 講義 実習<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/10 (金)<br>2/19 (金)             | コマ数             | 目的：産業医として必要な危機管理能力を獲得する考え方を模索する<br>講義の具体的内容：産業保健を取り巻く環境は、①就業年齢の高齢化、②流通のグローバル化、③新興感染症の出現等、多様化している。これからの産業医には、これらの危機の多様化に対応できる能力が必要となる。また、自分自身で対応できることに加えて、他分野の専門家と、何について、どのような時点で連携するのかを把握しておく能力も必要である。身近な例から、これらについて議論を重ねながら、皆で考えてみたい   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 1               |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第2クール<br>専門 1.5 |   |    |
| 7  | 産業医と倫理<br>100-07 (01-02)             | 藤 野 昭 宏 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>30名 | 8/ 3 (月)<br>1/22 (金)             | コマ数             | 産業医の実務遂行において、その根幹に必要とされるのは産業医としての倫理的基盤である。プロフェッションである医師としての産業医には、いわゆる医の倫理の枠組みに留まらず、企業倫理（企業の社会的義務と責任）や経済倫理などの社会倫理、などとのバランスを考慮した総合的な倫理的判断能力が求められることが少なくない。本講義では、社会行動ルールの最低基準としての法令を十分ふまえた上で、プライバシー保護などで法律と倫理が衝突する事例、メンタルヘルスの職場復帰で倫理的な判断が困難な事例、経営方針と産業保健の推進が相矛盾する事例など、産業医がその実務においてしばしば遭遇する代表的な事例について、どのように対応したらよいかを実践形式で発表してもらい、産業医の本来あるべき倫理的姿勢を検討する。さらに、日々の産業医実務に役立つように、実践行動倫理としてできる限り系統的に把握することを目標とする。 |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 2               |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第2クール<br>専門 3   |   |    |
| 8  | 日系企業の海外事業場における産業保健<br>100-08 (01-02) | 平 岡 晃   | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/10 (水)<br>1/12 (火)             | コマ数             | 本講義は、日本企業の進出の多いアジア地域、特に中国／インドネシアに焦点を当てて産業保健活動について解説する。日本企業の海外進出は盛んであり、外務省の海外在留邦人数調査統計によると、2015年10月1日現在の集計で本邦の領土外に進出している日本企業の総拠点数は7万拠点を超え、過去最多となっており、地域別ではアジアが総拠点数の約70%を占めている。日本企業の海外拠点における労働衛生活動については、現地の担当者が法令に準拠して行っていることがほとんどであると考えられる。しかし、先進国に比べて発展途上国や新興国においては、法令の整備に比べて時間がかかる専門人材の養成が遅れており、また外部サービス資源の質についても必ずしも標準化されていない。そのような課題に対して取り組む日本企業の中国／インドネシアでの活動を紹介しながら、今後グローバルに展開する企業の産業保健について検討する。 |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 1               |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                      |         |                                     |                                  | 第2クール<br>専門 1.5 |   |    |

| NO | 科目名・科目コード                                 | 講師名   | 方法・場所・定員                         | 実施日                | コマ/単位数                         | 概要   | 備考 |
|----|---|-------|----------------------------------|--------------------|--------------------------------|--|----|
| 9  | 女性労働・労働者保護<br>100-09(01-02)               | 長井 聡里 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/26(金)<br>1/15(金) | コマ数                            | 少子高齢化社会の職場では、性別・年齢・国籍などの属性のみならず、様々な事情を抱えた労働者に配慮し、またその特性を踏まえて実施することが大切となる。かつての労働者保護は、今日、産業保健におけるダイバーシティ&インクルージョンとして理解する。<br>また女性の就労については、妊娠出産期の特別な健康状態である母性健康管理を中心に、男性とは異なるホルモン環境によって変化する生理と病理を理解し、生涯を通じた健康管理のあり方について学ぶ。  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 1                              |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 10 | 労働衛生行政における厚生労働省の役割と部局間連携<br>100-10(01-02) | 諸富 伸夫 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/19(金)<br>1/15(金) | コマ数                            | 平成29年3月に策定された働き方改革実行計画において、病気の治療と仕事の両立支援を始めとする複数の産業保健関連事項が位置づけられる等、労働衛生行政は大きな変革期を迎えており、産業保健現場からも注目を浴びているところである。産業保健活動を円滑に行う上では、ただ単に法令を遵守することのみならず、その趣旨を十分理解し、厚生労働省を始めとした行政体制の仕組みも一体的に理解することが重要である。さらに、労働者が一人の人間として健康に過ごすためにも、地域保健との連携を踏まえた、切れ目ない支援が求められる。産業保健と地域保健との連携については、地域保健法第4条に基づく基本指針及び健康増進法第9条に基づく健康増進事業実施者に対する健康診査の実施等に関する指針において定められている。本講義では、政策立案における考え方、そして産業保健と地域保健との連携を実現する上で重要となる部局間連携を学ぶことを目的とする。 |    |
|    |   |       |                                  |                    | 1                              |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 11 | 安全・品質管理<br>100-11(01-02)                  | 庄司 卓郎 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/27(月)<br>2/24(水) | コマ数                            | 製品の安全管理と品質管理は、企業が顧客からの信頼を得て社会的責任を果たすために重要な役割を担う。かつては不良品や生産工程のトラブルを減らす目的で現場の小集団活動として行われてきた品質管理は、製品の設計から商品のアフターサービスまで幅広い領域をカバーするものとなっている。本講義では、品質管理の「工程管理」、「品質検証」、「品質改善」の3つのプロセスについて用いられる手法について説明するとともに、近年注目されているTQM(総合的品質管理)の狙いについて概説する。  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 1                              |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 12 | CSR・ESG－健康経営における産業保健活動<br>100-12(01-02)   | 永田 智久 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/3(水)<br>3/10(水)  | コマ数                            | 企業内部における産業保健のあり方として内部統治やコンプライアンス、リスク管理や人的資源管理とその強化への貢献は「健康経営」という考え方に集約される。一方で各利害関係者による企業外からの監視とそれに対して企業側から説明責任を果たす対象として、産業保健活動は取り扱われるようになった。講義では発展途上にあるCSRおよびESGの変遷と各ガイドラインにおける産業保健要素の取り扱いをまず概観する。その後、各企業のCSR報告書を読み、その分析結果を解説する。受講者は産業医実務の中で産業保健活動のCSR活動での位置づけについての基本的な理解と認識を持てるようになることを期待される。   |    |
|    |   |       |                                  |                    | 1                              |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |   |       |                                  |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |

| NO | 科目名・科目コード                                 | 講師名   | 方法・場所・定員                            | 実施日                | コマ/単位数  | 概要   | 備考       |
|----|---|-------|-------------------------------------|--------------------|---|--|----------|
| 13 | 雇用形態の多様化<br>100-13(01-02)                 | 永田 智久 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/16(火)<br>2/10(水) | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 | 昨今の事業場は、正社員、パートタイマー、派遣社員、請負社員などが混在して働いており、このような状況での産業医としての関わりには、元請けの事業場の産業医、派遣会社の産業医、請負会社の産業医など、様々な視点がある。この講義では、雇用・就業形態の整理と多様化の実態を解説したうえで、安全衛生の責任分担の原則についてワークシートを用いて理解する。                          |          |
| 14 | 労働安全衛生法および関連法令の<br>通読<br>100-14(01-02)    | 永田 昌子 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/19(金)<br>1/7(木)  | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>更新 1.5 | 産業医の活動には、労働安全衛生法およびその関連法令を理解することが不可欠である。本講習では、法・令・則などの日本の法体系を意識しながら、労働安全衛生法の全章に目を通し、単独で内容を調べることができるようにするとともに、労働安全衛生法の概要を把握することを目標とする。<br>【使用教材】安全衛生法要覧 中央労働災害防止協会、安衛法便覧、労働調査                       |          |
| 15 | 労働安全衛生年間計画<br>100-15(01-02)               | 田口 要人 | 文書作成<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名  | 7/8(水)<br>3/12(金)  | コマ数<br><br>2<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>実地 3   | 嘱託・専属に関らず、産業医として企業内で活動する際、通常その多くが当該事業所内の安全衛生活動年間計画にそって行われることが多い。当講座では、産業医が一般的に関与する労働安全衛生活動を中心に検討し、事業所の規模や種類に応じた年間活動項目を検討し、実際のモデル事業所における産業保健活動の年間計画を策定する実習を通じ、通年での産業保健活動の理解とその中で産業医がどのように関るかについて学ぶ。 |          |
| 16 | 安全衛生委員会（病院・大学・事務局 委員会参加）<br>100-16(01-02) | 山本 幸代 | 学内実習<br><br>学内<br><br>20名           | 7/14(火)<br>2/9(火)  | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分                                   | 安全衛生委員会は職場における安全衛生上の課題を討議し、改善計画や安全衛生活動計画などを策定する場であり、安全衛生において非常に貴重な活動である。安全衛生委員会において、産業医がその役割を発揮することは、第一義的に必須な事項といえる。本実習では、産業医科大学の安全衛生委員会を見学することで、大学組織の安全衛生委員会でのようなことが審議されているのか、また、課題となっているのかを学習する。 | 学内者のみ受講可 |

| NO | 科目名・科目コード                     | 講師名   | 方法・場所・定員                           | 実施日                | コマ/単位数                         | 概要  | 備考       |
|----|-------------------------------|-------|------------------------------------|--------------------|--------------------------------|---|----------|
| 17 | 学内産業医活動：職場巡視<br>100-17(01-02) | 山本 幸代 | 学内実習<br><br>学内<br><br>20名          | 7/21(火)<br>2/16(火) | コマ数                            | 職場巡視は、「産業医業務は、職場巡視にはじまり職場巡視に終わる」といわれるほど、産業医活動において基本的活動である。加えて、職場巡視は産業医の法定業務でもある。本実習では、産業医科大学における職場巡視に同行し、チェックリストを使用しながら、実際の職場巡視を経験する。その中で、職場巡視における基本的着眼点を確認し、業務としての職場巡視実施に関するイメージを身につける。  | 学内者のみ受講可 |
|    |                               |       |                                    |                    | 1                              |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    |                                |   |          |
| 18 | 質問票を使った調査<br>100-18(01-02)    | 石丸 知宏 | 学内実習<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/29(水)<br>3/9(火)  | コマ数                            | 疫学研究分野では、主にばく露評価手法として、質問紙法が広く用いられている。職歴や既往歴、生活習慣といった個人特性や、医療や社会医学的問題に対する個人的な意識や認識など、主観的および客観的な情報を短時間に多くの対象者から収集する手段として、実用的価値は高い。ただし、質問票の作成に当っては、研究趣旨の説明、簡潔明瞭な文章表現、集計解析作業への配慮など、予め考慮しておくべきことは少なくない。本講義では、医学研究における質問紙法について、実際の作成を通じて、実施手法を習得することを目的とする。具体的には、質問票と面接法の違いの理解、選択回答式質問と自由回答式質問の理解、回答率を上げるための配慮、質問紙の妥当性と再現性などを概説し、実際の質問紙の実例を検討するとともに、自ら質問紙を作成し、グループ討議を通じて理解を深める。                           |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 1                              |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>実地 1.5 |   |          |
| 19 | 中小企業における産業保健<br>100-19(01-02) | 吉積 宏治 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名   | 7/6(月)<br>2/1(月)   | コマ数                            | 中小企業は、我が国の全企業の99パーセントをしめており（従業員ベースでは72パーセント）、我が国の産業保健の充実を目指す時、中小企業の産業保健をいかに実践していくかは、非常に重要な課題である。本講義では、中小企業の定義や我が国における位置づけを理解するとともに、中小企業の産業保健の実践についての認識を深める。また、中小企業の労働衛生上の特徴や産業保健サービスの提供体制について学習する。中小企業産業保健をサポートするための基本的社会システムや、今後の中小企業産業保健における充実に向けての基本的な考え方について学ぶ。   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 1                              |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |   |          |
| 20 | 企業外労働衛生機関の実践<br>100-20(01-02) | 渡邊 聖二 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名   | 7/17(金)<br>2/18(木) | コマ数                            | 中小企業は、その規模故に、社内スタッフのみで産業保健活動を完結することは難しく、企業外専門スタッフのサポートをうけることが一般的である。企業外労働衛生機関は、企業外からサービスを提供する機関のうち、民間ベースで最も機能している機関である。総合的企業外労働衛生機関には、各種産業保健専門スタッフが所属し、産業保健サービスを提供することが可能である。また、企業外労働衛生機関は、我が国に広く存在する健康診断実施機関が、産業保健への専門性を高めたものであり、その充実が我が国の中小企業への産業保健サービス提供方式を大きく変える可能性をもっている。本講義では、大学近郊の企業外労働衛生機関の活動の概要を理解し、機関から提供される各種サービスについて学ぶ。また、機関医師などから客先企業の産業保健状況等について教えていただき、産業保健サービス提供側・需要側の双方について理解を深める。 |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 1                              |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 医師会認定<br>単位区分                  |   |          |
|    |                               |       |                                    |                    | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |   |          |

| NO | 科目名・科目コード                         | 講師名  | 方法・場所・定員                            | 実施日                | コマ/単位数          | 概要  | 備考 |
|----|-----------------------------------|------|-------------------------------------|--------------------|-----------------|---|----|
| 21 | 産業保健総合支援センターとの連携<br>100-21(01-02) | 筒井保博 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/10(水)<br>2/18(木) | コマ数             | 我が国の産業保健は労働安全衛生法の立法趣旨に従い、事業者は弱い立場の労働者を守らなければならない、というスタンスで実施されている。そして法律とは責任者が遵守すべき最低の基準であることから、事業者には更なる産業保健の拡充が求められる。大企業における産業保健は産業医や保健師などの産業保健スタッフ、健保組合、企業外労働衛生機関等が連携して実施されている。その一方で日本における事業所数の99%以上、労働者の7割が中小企業で就労している現状を鑑みると、中小企業への産業保健支援は現状では不十分で、産業保健総合支援センター等の産業保健関連組織や産業医の更なる充実と連携が重要な課題となっている。また最近では、両立支援等の取り組みも求められており、日本医師会や産業医科大学、日本産業衛生学会等の諸組織との更なる連携も必要となっている。本講義は産業保健関連の諸機関および組織の概要と産業医の連携について理解を深める事を目的とする。 |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 1               |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第2クール<br>専門 1.5 |   |    |
| 22 | 健康保険と健康保険組合<br>100-22(01-02)      | 牛房鉄也 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 1/19(火)            | コマ数             | 企業では社員700人以上（または3000人以上）の会社であれば、国の許可を受けて単独で健康保険組合を設立することができ、この組合組織によって保険給付事業と保健事業（健康づくり）という二つの事業を行っている。また、単独で健保組合を持つことができない中小企業では協会けんぽ（旧、政府管掌健保）に加入している。企業において産業保健活動を行う際には、健康保険と組合の仕組みに精通することは重要である。この講義では保険組合の一例として健康保険組合連合会福岡連合会から講師を招き概要について解説していただく。  |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 1               |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第2クール<br>専門 1.5 |   |    |
| 23 | プレゼンテーション<br>100-23(01-02)        | 柴田喜幸 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/8(水)<br>1/12(火)  | コマ数             | 産業医の主要活動項目には、嘱託・専属に限らずプレゼンテーションの機会が多々存在する。プレゼンテーションには、主に従業員や管理職などを対象に行う講義・講習形式のものが多い。労働安全衛生に関する教育や啓蒙、産業保健活動の周知の機会として重要であるプレゼンテーションについて、系統だった教育機会はそれほど多くない。当講座では、集団に対する講義形式のプレゼンテーションの要素を中心に、実習を通じて効果的なプレゼンテーションの基礎について学ぶ。   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 1               |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第2クール<br>専門 1.5 |   |    |
| 24 | 統括産業医のマネジメント<br>100-24(01-02)     | 森晃爾  | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>30名 | 6/24(水)<br>2/22(月) | コマ数             | 労働安全衛生法では、産業医は事業場単位で専任されることになっているが、昨今、企業全体の産業保健職を統括し、企業全体の産業保健施策を立案する統括産業医が増えてきている。実務講座の受講者の多くは、統括産業医には就くことはないかと思われるが、統括産業医と連携して働くことは十分に考えられる。そこで、統括産業医を題材としてケースを用いた討論を行い、統括産業医の機能を理解するとともに、企業の方針と事業場の産業保健活動との関連を学ぶ。  |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 2               |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 医師会認定<br>単位区分   |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第1クール<br>なし     |   |    |
|    |                                   |      |                                     |                    | 第2クール<br>専門 3   |   |    |

| NO | 科目名・科目コード                                 | 講師名    | 方法・場所・定員                         | 実施日                                     | コマ/単位数  | 概要   | 備考 |
|----|---|--------|----------------------------------|---|---|--|----|
| 25 | 農業における産業保健<br>100-25(01-02)               | 上田 厚   | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/8(月)<br>1/12(火)                       | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 | 農業においては、腰痛業務、化学物質作業（農薬など）、過重労働、暑熱・寒冷作業、騒音など様々な有害要因が存在している。このようなリスクを抱えているにもかかわらず、農業従事者の大半は自営業あるいはそれに準じた者であるため、充実した産業保健サービスを受けることが難しい環境にある。本講義ではこのような農業の産業保健における現状と課題について理解することを目的とする。   |    |
| 26 | 外資系企業・国際展開する企業における産業保健活動<br>100-26(01-02) | 岡原 伸太郎 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/19(金)<br>1/15(金)                      | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 | 日本の企業では労働安全衛生の関係法令に規定された事業者の責任や産業医の職務などに基づいた労働安全衛生（Occupational Safety and Health）の実行、つまり法令遵守が一般的に重要視されている。しかし、当然ながら法令を始めとする企業経営の外部環境は国や地域によって様々な違いがあるため、世界規模で企業経営を展開していくためには当該国・地域の法令や文化・慣習を遵守することに留まらず、労働安全衛生の本質的な意義・役割を捉えた活動が必要となる。また、単に労働者を守るということに留まらず、より健康で幸福な労働者を創出することで、生産性が高く、ビジネスを通じて社会により貢献できる組織となることも必要とされる。本講義では従業員の安全衛生・健康をこのように捉えてグローバル経営を行う企業の一例を紹介する。 |    |
| 27 | Disease Management<br>100-27(01-02)       | 松田 晋哉  | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/8(月)<br>1/18(月)                       | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 | 医療コストの高騰に対し、そのような状況を克服するための新たな取り組みとして1990年代に米国を中心に「継続」「連携」「包括」などを備えた医療提供システムとしてdisease management の概念が提唱された。その目標とするところは、特定の疾患についてガイドライン等を元に医療提供者、患者、住民への働きかけを行い、保健医療コストのコントロールとサービスの質の向上を図ろうとするところであり、日本においても今後その可能性が期待されるところである。本講義では、比較的新しい概念である disease management の米国におけるこれまでの展開と日本への導入に関する課題、またその可能性について解説する。   |    |
| 28 | 産業医活動の実際<br>100-28(01-04)                 | 外部講師   | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 6/29(月)<br>7/3(金)<br>1/29(金)<br>2/15(月) | コマ数<br><br>2<br><br>医師会認定<br>単位区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 3   | 産業医として活動されている卒業生等を講師に迎え、実際の産業医職務の楽しさ、苦勞、工夫などを後進にご紹介いただく機会としている。  |    |

| NO | 科目名・科目コード                    | 講師名            | 方法・場所・定員                                | 実施日   | コマ/単位数   | 概要  | 備考       |
|----|------------------------------|----------------|---|---|--|---|----------|
| 29 | 労働衛生・健康教育実習<br>100-29(01-08) | 柴田 喜幸          | プレゼンテーション<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/14(火)<br>7/16(木)<br>7/29(水)<br>8/4(火)<br>2/4(木)<br>2/12(金)<br>3/3(水)<br>3/12(金) | コマ数<br><br>2<br><br>医師会認定<br>単位数区分                                 | 労働衛生教育：労働衛生教育の意義を踏まえて、各自で教育場面を想定し企画立案を行う。企画に基づき実際の教育資料を作成したのち発表し、受講者同士でも講評し合い、体験型学習とする。<br>健康教育：修練医が自分の臨床研修専門科と産業保健の関わりの中からテーマを絞り、健康教育を行う。この実習を通じて、健康教育を実際に行う際の留意事項および対象に応じた内容、ツール、表現で教育を行うことの重要性を学ぶことを目的とする。     | 学内者のみ受講可 |
| 30 | 企業経営と産業保健<br>100-30(01-02)   | 永田 佳子<br>外部講師  | 講義<br><br>ラマツィーニ小ホール<br><br>50名         | 6/18(木)<br>2/1(月)   | コマ数<br><br>2<br><br>医師会認定<br>単位数区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 3 |   |          |
| 31 | 企業における教育<br>100-31(01-02)    | 金子 誠二<br>柴田 喜幸 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名        | 7/6(月)<br>1/27(水)   | コマ数<br><br>2<br><br>医師会認定<br>単位数区分<br>第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 3 | 企業において、一般従業員に対してどのような教育が施されているか、企業の教育についての考え方や実践例を学ぶ。   |          |
| 32 | 職場巡視の実際<br>100-32(01-08)     | センター教員         | 学外実習<br><br>学外<br><br>20名               | 6/23(火)<br>7/1(水)<br>7/9(木)<br>1/21(木)<br>2/2(火)<br>2/4(木)<br>2/10(水)             | コマ数<br><br>3<br><br>医師会認定<br>単位数区分                                 | 職場巡視は、産業医の法定業務であるだけでなく、産業医として活動する上で必要な情報収集したりコミュニケーションしたり出来る機会であり、「産業医業務は、職場巡視にはじまり職場巡視に終わる」と言われるほど、産業医活動における基本的活動である。本学習では、学外の様々な事業場を訪問し、実際の企業において、産業医職場巡視を模擬体験する。その中で、職場巡視における基本的な振り舞いや着地点ならびに業務としてのイメージを身につける。 | 学内者のみ受講可 |



| NO              | 科目名・科目コード                          | 講師名     | 方法・場所・定員                            | 実施日  | コマ/単位数        | 概要  | 備考       |
|-----------------|------------------------------------|---------|-------------------------------------|--|---------------|---|----------|
| 33              | 職場巡視の事後措置<br>100-33 (01-08)        | センター教員  | 学内実習<br><br>産業医実務研修センター<br><br>20名  | 6/30 (火)<br>7/ 8 (水)<br>7/20 (月)<br>2/ 1 (月)<br>2/ 9 (火)<br>2/12 (金)<br>2/22 (月)             | コマ数           | 本講座は、別講座『職場巡視の実際』の事後措置として実施する(両方の受講を要する)。本学習では、大学近郊の事業場において職場改善の実例を模擬巡視で学習した結果について、受講者が各自、職場巡視報告書の形にまとめ、内容について検討会で相互に検討する(会議後に報告書を修正し、巡視した事業場の担当産業医へ提出する)。検討会の中で、学習した職場改善について整理し、受講者の視点での更なる改善を提案することで、継続的な職場改善について学ぶ。尚、担当教員の判断により、e-learning上での報告書の添削指導で検討会に代える場合もある。  | 学内者のみ受講可 |
|                 |                                    |         |                                     |  | 1             |   |          |
|                 |                                    |         |                                     |  | 医師会認定<br>単位区分 |   |          |
| 34              | ケースメソッドによる事例検討<br>100-34 (01-08)   | センター教員  | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>20名 | 6/17 (水)<br>6/25 (木)<br>7/ 7 (火)<br>7/15 (水)<br>2/ 5 (金)<br>2/ 9 (火)<br>3/ 4 (木)<br>3/10 (水) | コマ数           | 企業における課題に、産業医として直面した際の問題解決能力を向上させるために、実例に基づいた企業の概要・状況と直面している課題が記述されたケース(事例)を提供し、その課題解決のための企画立案を行う。この講座は、多くのビジネススクールで用いられている学習手法であるケースメソッド方式で進めるため、参加者は、事前に各自でケースを読み、自分なりの答えを検討してくるという事前準備が求められる。当日は小グループに分かれて問題分析や企画立案を行った後、講師がディスカッションリーダーとなって全体討論を行い、最後に、取り上げたテーマについて解説を行う。ケースのテーマは、リスクマネジメントや健康管理など、様々である。           | 学内者のみ受講可 |
|                 |                                    |         |                                     |  | 2             |   |          |
|                 |                                    |         |                                     |  | 医師会認定<br>単位区分 |   |          |
| 35              | 労働災害と危機管理<br>100-35 (01-02)        | 庄 司 卓 郎 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/15 (月)<br>2/10 (水)   | コマ数           | 近年、災害の防止を主眼としたリスク管理と同時に、災害が発生してしまった時の対応としての危機管理が重要となってきている。平素から危機管理を行っていなかったために、想定外の事態に直面した時に、適切な対応が行えず企業の存続が危ぶまれるケースも少なく無い。近年では、事故やトラブルを起こさないことだけでなく、発生してしまった想定外の事象に対応して復旧する能力であるレジリエンスが注目されている。本講義では、危機を招く事象として、事故や労働災害を取り上げ、危機に強い組織のあり方や想定外の事故・労働災害発生時の適切な対応をいくつかの事例を交えながら学ぶ。  |          |
|                 |                                    |         |                                     |  | 1             |   |          |
|                 |                                    |         |                                     |  | 医師会認定<br>単位区分 |   |          |
| 第1クール<br>なし     |                                    |         |                                     |  |               |   |          |
| 第2クール<br>専門 1.5 |                                    |         |                                     |  |               |   |          |
| 36              | 労働安全衛生マネジメントシステム<br>100-36 (01-02) | 森 晃 爾   | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/ 2 (木)<br>2/ 8 (月)   | コマ数           | これまでの労働安全衛生活動は、詳細に規定されてきた法令遵守を中心に実施されてきたが、今後は法令を遵守することは最低基準であることを再確認した上で、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)の導入に自律的安全衛生の推進が必要になっている。すでにわが国でも、一部の企業でOHSMSの導入が進んでいるが、その実態は安全分野に偏ったシステムであることが少なくない。今後、安全と健康がバランスよく含まれたOHSMSが構築されるためには、産業保健専門家がOHSMSの導入に積極的に関与する必要がある。本講義では、マネジメントシステムの概念と安全と衛生のバランスが取れたOHSMSのために必要な理解をいくつかの課題を通して学習する。 |          |
|                 |                                    |         |                                     |  | 2             |   |          |
|                 |                                    |         |                                     |  | 医師会認定<br>単位区分 |   |          |
| 第1クール<br>なし     |                                    |         |                                     |  |               |   |          |
| 第2クール<br>専門 3   |                                    |         |                                     |  |               |   |          |

| NO | 科目名・科目コード                            | 講師名   | 方法・場所・定員                            | 実施日                  | コマ/単位数                         | 概要   | 備考 |
|----|--------------------------------------|-------|-------------------------------------|----------------------|--------------------------------|--|----|
| 37 | 労働安全衛生マネジメントシステム監査<br>100-37 (01-02) | 梶木 繁之 | 参加型講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 7/ 2 (木)<br>2/ 8 (月) | コマ数                            | 労働安全衛生マネジメントシステムが事業所内の安全衛生活動の一環として有効に機能しているかどうかを確認する手段として、監査がある。本講義では、内部監査について概説したのち、仮想の事例をもとに実習を通じて監査員の役割や監査の手順を体験する。   |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 1                              |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 38 | インストラクショナルデザインの考え方<br>100-38 (01-02) | 柴田 喜幸 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/ 1 (月)<br>1/ 5 (火) | コマ数                            | 教え方の技術、それがインストラクショナルデザイン (Instructional Design、教授設計) である。教育工学や学習心理学を下地とした比較的新しい領域で、他人に (殊に専門や関心が異なる人に) 何かを教える時に役立つ。産業医が相手とする人の大多数は患者でもなく、医学生や医療従事者でもない。その方々に「健康に関心をもたせ行動変容につなげる」のが産業医の大きな仕事であり、「教え方」は重要な技術の1つと考える。その方々、つまりは「必ずしも産業医の話への基本知識や関心のない人」に、効果的・効率的・魅力的に何かを教える (伝える) にはどうしたらよいかの方法を学ぶ。「労働衛生・健康教育実習」を受講される場合は、予め本講義を受講することが望ましい。 |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 1                              |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 39 | 社会的健康規定要因<br>100-39 (01-02)          | 藤野 善久 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 7/ 1 (水)<br>1/20 (水) | コマ数                            | 近年の公衆衛生学の重要テーマである社会的健康規定要因 (Social Determinants of Health) の観点から、企業施策と健康影響の関連を理解する。また、企業施策の健康影響を配慮するツールとして、健康影響評価 (Health Impact Assessment) について紹介する。   |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 2                              |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 3   |  |    |
| 40 | 新型コロナに関する労務問題Q&A<br>100-41 (01-02)   | 三柴 文典 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名    | 6/ 5 (金)<br>1/ 8 (金) | コマ数                            | 新型コロナに関わる労務問題について、Q&A形式で解説する。<br>疾病休職者の在宅勤務期間中の復職判定、新型コロナに関する業務命令の可能な範囲、感染が疑われる労働者に休業命令を下した場合の休業手当の支払い義務、派遣元と派遣先の手当の負担関係、基礎疾病がある者を就業させて重症化した場合の使用者の責任などを扱う予定である。<br>テキストは、今年11月に新設予定の日本産業保健法学会のウェブサイトとする。<br><a href="https://jaohl.jp/qa/">https://jaohl.jp/qa/</a><br>時間が許せば、神奈川SR経営労務センター事件を素材とした討議と解説を行う予定である。                       |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 2                              |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                      |       |                                     |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 3   |  |    |

| NO | 科目名・科目コード                        | 講師名        | 方法・場所・定員                                   | 実施日                  | コマ/単位数                         | 概要   | 備考 |
|----|----------------------------------|------------|--|----------------------|--------------------------------|--|----|
| 41 | 産業保健における個人情報保護<br>100-42 (01-02) | 堀江 正 知     | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名           | 7/21 (火)<br>2/ 5 (金) | コマ数                            | 産業保健における健康情報の取扱いの特徴を整理し、人権としてのプライバシー権、医療職の守秘義務、事業者による健康情報の取扱い、個人情報保護法に基づく個人情報の保護、労働基準局や医政局等の通知に基づく診療情報の取扱いについて概説する。特に、「雇用管理に関する個人情報のうち健康情報を取り扱うに当たっての留意事項」（労働基準局）について詳説する。関連分野として、高齢者医療確保法に基づく健康情報の取扱い、欧米における健康情報の取扱いを紹介する。これらに基づいて、実際の職場において健康情報を適切に取り扱うために配慮すべき事項が理解できるようになる。  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 1                              |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 42 | 産業保健組織体制と産業医<br>100-43 (01-02)   | 一瀬豊日・企業担当者 | 講義<br><br>ラマツィーニ・研究所<br>5 4 7 6<br><br>50名 | 6/ 4 (木)<br>1/28 (木) | コマ数                            | わが国には従事者数1000人以上の事業所は1703あり、従事者数500～999人の事業者は3745ある（平成26年総務省経済センサスより）。したがって、少なくとも2800事業所が専属産業医を有する。これに対して本学には全国の常勤産業医求人のおよそ半数が寄せられていると推定され、この30年余りで600事業所以上に参与している。安全衛生に係わる職種と体制に関しては労働安全衛生法で定められているが、雇用形態、組織図上の位置づけ、業務内容などの詳細は事業所や企業ごとに異なる。また、労働衛生施策上の重点事項の変化や保健診療点数の変化により、産業保健体制も変化している。本講義前半では、とくに産業医に係わる産業保健体制に関して、本大学に蓄積されたデータの解析結果をもとに、類型化と変化の傾向を概説する。後半では、現在産業医求人中の数社の担当者を招聘し、各事業所の求人内容、すなわち産業保健体制を概説していただき、ケーススタディー学習とする。  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 2                              |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 3   |  |    |
| 43 | 産業保健における個人情報活用<br>100-44 (01-02) | 安 藤 肇      | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名           | 6/ 3 (水)<br>3/ 2 (火) | コマ数                            | 産業保健における個人情報記録には、健康診断結果、就業措置情報、就業情報など多岐に及ぶ。労働安全衛生法（安衛法）に規定された労働者の健康診断結果（健診情報）は、企業および労働者の健康管理における基本的な情報源であり、事業者は、産業医等の医師等の意見を勘案し、就業場所の変更、作業の転換、労働時間の短縮、深夜業の回数の減少等の措置を講ずることが求められている。同法における健診情報は、単なる個人の健康管理記録であることのみでなく、企業における健康管理への有効活用を前提としている。産業保健の現場では、このような情報をどう使うかが求められており、産業医はそれを活用するファシリテーターとしての役割を担っている。本講義では、産業保健における個人情報記録の体系や事例を提示し、現状での問題点などについて解説する。さらに今後の個人情報記録のあり方についての展望を交えながら、産業医（産業保健スタッフ）のワークフローの中での活用について考察を加える。 |    |
|    |                                  |            |  |                      | 1                              |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |
| 44 | 労働災害の全般<br>100-45 (01-02)        | 平 野 雅 幸    | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名           | 7/13 (月)<br>1/13 (水) | コマ数                            | 労災補償制度の説明、労災認定基準（主に「心理的負荷による精神障害の認定基準について」及び「脳血管疾患及び虚血性心疾患等（負傷に起因するものを除く。）の認定基準について」の説明を行う。<br>また、脳心・精神疾患の労災認定状況を交えながら、産業保健スタッフとしての役割や重要性についての説明を行う。   |    |
|    |                                  |            |  |                      | 1                              |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 医師会認定<br>単位区分                  |  |    |
|    |                                  |            |  |                      | 第1クール<br>なし<br>第2クール<br>専門 1.5 |  |    |

| NO | 科目名・科目コード                        | 講師名     | 方法・場所・定員                         | 実施日 | コマ/単位数  | 概要   | 備考 |
|----|----------------------------------|---------|----------------------------------|-----|---|--|----|
| 45 | 制定時に溯って見る労働安全衛生法の基礎的事項<br>100-99 | 畠 中 信 夫 | 講義<br><br>産業医実務研修センター<br><br>50名 | 休講  | コマ数<br><br>1<br><br>医師会認定<br>単位区分<br><br>第1クール<br>なし<br><br>第2クール<br>専門 1.5 | 1972（昭和47）年に労働安全衛生法が制定、施行されて以来、48年が経過した。同法制定当時年間6000人前後を数えた労働災害死者数は、同法の制定、施行後3～4年のうちに年間3000人台にまで減少し、その後は徐々に減少して、今年年間1000人を切るまでになっている。このような安衛法制定、施行の前後に見られた急激な労働災害死者数の減少という状況に対して労働安全衛生法の制定、施行が与って大きな力があったことは何人も否めないところであろう。それについては、「主たる義務主体の使用者から事業者への変更、請負規制やその他の規制の強化などを内容とする労働安全衛生に関する独立法の制定という動きを踏まえた、産業界をはじめとする世間の労働安全衛生に対する認識の変化と関心の高まり」と説明することが出来るのではないだろうか。労働安全衛生法は、その後も、改正を重ねつつ、現在までその精彩を失わずにその役割を果たし続けて来ていると言えるであろう。ただ、あとしばらくでその制定、施行から半世紀を迎えようとする現在、制定時に溯って、その当時論議されたその基礎的事項について振り返ってみる（温故知新）のも意義のあることではないかと思われる。 |    |
|    |                                  |         |                                  |     | コマ数<br><br><br><br>医師会認定<br>単位区分  |  |    |
|    |                                  |         |                                  |     | コマ数<br><br><br><br>医師会認定<br>単位区分  |  |    |
|    |                                  |         |                                  |     | コマ数<br><br><br><br>医師会認定<br>単位区分  |  |    |